

仙台市博物館協議会(令和3年度第3回)会議録

1. 会議の年月日 令和4年3月15日(火)

2. 開会及び閉会の時刻 午後3時から午後4時35分まで

3. 出席委員の氏名(五十音順・敬称略)

跡部薫、尾崎彰宏、菊池勇夫、佐川正敏、佐治ゆかり、佐藤憲子、伊達泰宗、長岡龍作、森美智子

※高橋綾子委員は欠席。一部の委員はオンラインでの出席。

4. 説明者の職及び氏名

館長＝高橋泰、副館長＝高橋あけみ、庶務係長＝高橋薫、学芸企画室長＝酒井昌一郎、

主幹兼学芸普及室長＝樋口智之、指導主事＝飯淵泉、学芸企画室主任＝菅原美咲、

学芸企画室主任・記録＝佐々木徹

5. 議題及び報告並びに議事の要旨

(1) 会議録署名委員の選任

会長と佐治委員とする。

(2) 報告事項

① 令和3年7月～令和3年9月の観覧者数について(庶務係長報告)

「資料1」のとおり。

② 特別展「ライデン国立古代博物館所蔵 古代エジプト展」の結果報告について(学芸企画室長報告)

「資料2」のとおり。

[委員からの意見]

小・中学生向けガイドシートがモノクロ印刷となっている。もう少しおしゃれな作りにはできないものか。

[事務局からの回答]

7000枚ほど配布でき、小・中学生だけでなくご家族にも多く持って行ってもらったところである。作りについては、今後工夫したい。

[委員からの意見等]

関連イベントのうち講演会については、オンライン開催に向けた予算化など、具体的な方針はどう立てているのだろうか。すでに国民全体の共通認識ともなってきたので、ぜひ積極的に推進してほしい。

[事務局からの回答]

オンライン開催にも力を入れていきたいと考えている。ご意見ありがとうございます。

③ 教育普及事業について(指導主事報告)

「資料 3」のとおり。

〔委員からの意見等〕

博物館実習を行う予定はあるのだろうか。

〔事務局の回答〕

館内では行わないが、館職員が大学等へ出向いて講座を実施するといったことは考えている。

〔委員からの意見等〕

博物館以外の場所で、社会人としての心得を学ぶとういことも重要ではないか。

〔事務局の回答〕

ご意見ありがとうございました。

④市史活用推進事業及び資料レスキューについて(主幹兼学芸普及室長報告)

「資料 4」のとおり。

〔委員からの意見等〕

仙台防災未来フォーラム2022について、会場での解説を行うなど、現場対応は非常に素晴らしかったように思う。ところで、パネル等の英語表記はどうなっているのか。

〔事務局からの回答〕

今回は新型コロナウイルス感染拡大の関係もあり、外国人来場者をほとんど見込んでおらず、実施していない。今後は考えていきたい。

⑤令和 3 年度の各種機関との連携事業について(主幹兼学芸普及室長報告)

「資料 5」のとおり。

⑥長寿命化改修工事の進捗について(庶務係長報告)

口頭報告。館内全体の工事では、上下水道の配管工事を終えた。展示室の工事では、企画展示室の壁ケースの撤去工事を終えた。現在は収蔵庫にある収蔵物の移送作業を行っている。なお、世界的な半導体不足により、入荷時期が見込めない部品があり、現状を注視しているところである。

〔委員からの意見等〕

館だよりも掲載されている博物館を支えるバックヤードなどについて、TV 等で紹介してはいかがか。

〔事務局からの回答〕

今後、当館 HP を通じて紹介していきたいと考えている。また、ご質問にあったマスコミ等の活用は、タイミングをみて行っていけないかと考えている。

〔委員からの意見等〕

放射能を阻止するフィルターの新調や壁の厚みをどうするかなど、これまで考えられてこなかったリスクについての対策は、この改修工事には見込まれているのだろうか。また、外気の流入を止めるなど、ソフト面での対応

もある。そのあたりも含めて、どのように考えているのか。

〔事務局からの回答〕

今回は空調の容量が上げられないなど、ハード面での対応はなかなか難しいので、ソフト面で対応できないかと考えている。

⑦令和4年度の展示活動について(学芸企画室長報告)

「資料6」のとおり。次の協議事項と併せて質疑応答を行う。

⑧その他

なし

(3) 協議事項

①メディアテークにおける体験展示について(学芸企画室主任報告)

「資料7」のとおり。

〔委員からの意見等〕

他会場で博物館の魅力や仙台の歴史・あり方を知ってもらうのは素晴らしい機会である。ぜひ様々な工夫をしていただきたい。

〔事務局の回答〕

ご意見ありがとうございます。こうした機会をむしろチャンスと捉えて、館外で行うという普段できない形で工夫を凝らし、これまで博物館に来たことがない方々にも来ていただけるような貴重な機会としたい。

〔委員からの意見等〕

この機会をチャンスと捉え、今までと違う発想を取り入れたのが体験展示なのだろうと感じた。これまで来たことがない若い人たちに来てもらうために、彼らの得意なデジタルツールを活用するといった方法もあると思う。また、新型コロナと工事休館という普段と違う状況に向き合った結果、どういった全体的なビジョンが立てられたのかがわかると、個別の案件の位置付けがわかりやすくなる。そうした全体像が議論できることを期待している。

〔事務局の回答〕

ご意見ありがとうございます。今後は、新型コロナと工事休館という状況をふまえて、これまで協議してきた事案の組み合わせや全体的な位置付けも考えながら議論を進めていきたいと思う。

②その他

なし

(4) その他

①令和4年度の博物館協議会開催日程について

「資料8」のとおり。

次回の令和4年度第1回協議会は令和4年5月24日(火)15時からの開催を予定している。この時期も大

規模改修の最中であるため、館内ではできない可能性があり、日程や場所の変更が必要な場合もあり得る。随時、連絡を取り合いたい。

②その他

なし